

ソクラテス、その後

於・一八八八年九月一八日(日)

東京都立狛江高等学校公孫樹祭

配役

ソクラテス	秦 一夫 (英語科)
高校生	崎山智明 (生徒有志)
市長	湊本敏江 (演劇部)
助役	西村はまな (演劇部)
職員	野村裕美 (演劇部)
先生	伊藤 貴子 (演劇部)
女生徒A	佐野香織 (演劇部)
女生徒B	今井正子 (演劇部)
池辺さん	池辺一男 (理科)
D	佐野大介 (生徒有志)
E	佐々木利幸 (社会科)
通行人	大石 隆 (数学科)
陶芸家	佐藤幸三 (社会科)
照明	米山吏佳 (理科)
照明	榎本則子 (演劇部)
照明	室伏寿美 (演劇部)
音響	水野欣爾 (理科)

ソクラテス (舞台中央で寝ている。起き上がりながら)

んー、いったい、ここは何処なんだ。わしは今まで何をしていたというんだらう。

(辺りを見回しながら、舞台の右後ろ、左後ろまで覗きに行く)

高校生 (左後ろから現われる。ソクラテスと肩がぶつかり、ソクラテス倒れる)

おっと、おじいさん、ごめんね。

ソクラテス (起き上がれず、手を伸ばしながらうめく)

う、うん……。

高校生 大丈夫？ちつ、まいったなあ。今日も遅刻か。まだ、入学式から三日しか

経っていないっていうのに……。もう十日も遅刻しちゃったよ。あれ？

高校生 おい、なにやらぶつぶつ言っている君は、誰だ。

ソクラテス 誰って、僕は高校生のなかでは今どき珍しくガムを噛んだことのない由緒正し

い高校生です。(襟を正しながら)

ソクラテス 高校生？ガム？

高校生 おじいさん、やだな、ガムを知らないの？

(ポケットからガムを取り出す)

これをこうやって噛むとね、口臭が消えるから和泉多摩川駅前特別唐辛子入りのテグタンラーメンだって食べるしね。それに、嫌いなやつにはこうやって、

(ポケットからガムを取り出して丸め、ソクラテスにねばそうとする)
えんがちよだつて出来るんだよ。

ソクラテス わしはパンと葡萄酒しか食したことがないが。
高校生 遅れてる！。

ソクラテス それに高校とはなんなんだ？そもそもここは何処なんじゃ。
高校生 高校も知らないなんて。貴方はひよっとして、あの刹名な変なおじさんではありませんか？・・・ねえ、変なおじさん。ここはその高校、狛江高校といところの体育館なんですよ。

ソクラテス (一人で首をかしげながらぶつぶつ言う)
狛江高校って、親孝行の親戚だろうか。
高校生 (ソクラテスの顔を覗き込む)
わっ。

ソクラテス わっ、びっくりした。
高校生 自由な学校でいいよ。休み時間にスリッパのまま外に出ると怒鳴る先生がいるけど人畜無害だしね。夏になれば、多摩川で泳ぐことだってできるんだよ。秋は秋でお祭りがあるでしょ。おかげで僕たちや、プツン、
ソクラテス ああ。胃が痛い。(胃を押えながらよろめく)

高校生 だけど、心配しなくたっていいよ。僕だって将来のこと、きちっと心配しているしね。河合塾の模試だって受けるからさ、・・・ほらっ、これ、会員証。
ソクラテス ああ、いったい、この世は何なんだ。まるで浜松名産うなぎパイを福神漬でまぶして油虫でいためたようだ。

高校生 おじいさん。どうしたの？まだ一日が始まったばかりだよ。うなぎパイは夜のお菓子だよ。それとも酔っ払って前後の見境がなくなったの？

ソクラテス これ、高校生とやら。わしは世間を見てみたくなった。ちょこっと、わしを連れて旅に出てみてくれんか。

高校生 えっ、たまんないなあ。旅だなんて簡単に言うけど、夕方までには帰らないとお母さんに叱られるしなあ。そうしたら、おやつだって食べられなくなるしなあ、……しかし、まあ。十分遅れんのも、八時間遅れんのも同じだから、暇潰しと思って付き合ってるか。一体何処に行きたいの。

ソクラテス ー、そうだなあ。
(ソクラテスぶつぶつ言いながら退場。高校生彼を伺うようにして付いていく)

政治家 言ってしまうとね、わしは頭も才能もない。ただ詭弁を弄して人に信じさせるのが得意だったから政治家になった。実際、善の心を持たずして金儲けができるのは政治家か医者、弁護士と相場が決まっているではないか。君はそうは思わんかね。

弁護士 いや、私達弁護士と政治家を一諸にはしないで欲しいね。なんと言ったって弁護士は弱い人の味方だからね。なにより君たちと違って弁護士は人の心に耳を傾ける器があるんじゃないよ。

医師 そうだよ。それに医者に才能は要らんかもしれないが、頭と親の投資は必要だからね。・・・政治家は収入を得るために黒を白にだっするといいうじやな
(困った顧付きをしながら)

政治家 さて、黒を白にしてしまうのは弁護士の得意技じゃなかったかな。だから、腹のなかには黒が溜っているっていう噂だぞ。

政治家

モスラのほうがよっぽど可愛いってもんだ。

(弁護士に向かつて)しかし、わしたちは君たちのようにだな、に罪を犯した者でも無罪にってしまうというような、そんなソフィストのような真似はしないよ。

はっはっは。君たちはふたりとも偉大な嘘の発明家だ。

いや、黒を白にするのは並大抵ではないぞ。それにしても、我々には法がついているのであって、弁護士を政治家のような凡才と一緒にされては困るね。わしらにだって特殊技能はあるさ。

どんな？

仕事を与える代わりに政治献金を受け取る。パー券売って、選挙資金を集める。我々は金集めの天才さ。

ふん、それでいて子どもたちには道徳教育の強化とかなんとか言って、高校生パーティ券を売ったりすると取り締まったりするのか。その道徳の無さはほとんど芸術だね。おへそがコカコーラを沸かすってなもんだ。

はっはっは、良心的なのは医者だけときたもんだ。

さても、どんなものか。

なに？

最近の医術は仁術ではなくて算術だというではないか。

うっ。(手を喉に当て、息を詰まらせる)

そうだ、そうだ。所沢富士見産婦人科病院を見てみる。必要もないのに手術をして、金儲けをして。命を預かっている分だけ罪が重たいってもんだ。

そうだ、必要もないのに薬つけをしているのが医者だ。わしは松前漬は好きだが、薬つけは好かんぞ。まったく、貴様らに稼がせるためにわしらは税金をせつせとたくしているようなもんだ。(自分の世界に没頭する様子で) あっちから酒税を取り、こっちから揮発油税を取り。えっ？お米に税を掛けるって？、君たち、農民様は神様だよ。わたしたちにきちっと投票してくれるね。ひえっ、い、くわばら、くわばら。

薬つけは患者のためさ、まあ、私達の生活のためでもあるが……。生活権を保障したのは君たちではなかったかね、政治家君。

ふん、薬漬け。

そうだ、お前なんぞ永谷園のお茶漬けの代わりに薬つけでご飯でも食べてろ

政治家
弁護士

医者

政治家

弁護士

医者

政治家

医者

政治家

弁護士

政治家

(場面は代わって市役所のなか、市長、助役、職員と続けて登場)

そろそろご決断をお願いします。

その前に「市長」と入れてくれんかね。

市長！そろそろご決断をお願いします。

貴方、そんなに自分が市長だということをアピールしたいんですか？市長！

そう。だったら、ご自分で「私は市長だが、……」と言ったらいじゃないですか、市長。

助役

職員

助役

市長

助役

市長
職員
市長
職員
市長

いや、私は市長とは言いたくないんだ。
じゃあ、どうして市長だと言わせるんですか？市長。
（語気荒く）自分では市長とは言いたくないんだ！
この人はいったい何を言っているのかな？
分らんかな。私は自分では市長とは言わんが、人には「ああ、この人は市長さんなんだな」って、いつも思われていたい市長なんだよ。・・・分かったら後ろからそっと付いてきなさい。

ソクラテス
高校生

ああ、目まいがしそうだ。彼らはいったい何を言い争っているのかな。ええ、最初の彼らはそれぞれ医師、弁護士、代議士を職業としている人々で、三つの名士とか言われて、現代では最も金持ちだって尊敬を集めている人達ですよ。後の方は、お役所という所に勤めていて、税金で生活しながら首にもならないので仕事中でも新聞を読んだりして呑気な人たちです。

ソクラテス
高校生
ソクラテス

（熱気を帯びながら）ギリシャで真理を求め続けた、あの美しくも賢い人生の教師たちじゃよ。
さあ、教師などというつまらんもんはごみ箱にだって落ちてないんじゃないですか。少年ジャンプならたまに捨てるけどね。
（ごみ箱に近づき、派手にごみを投げ上げてから漫画を捜し出して読み始める・・・
うん、こっちの方がよっぽど面白い。

ソクラテス
高校生
ソクラテス
高校生
ソクラテス

ああ、息が詰まる思いだ。
ところで、おじさんは誰なんです？
誰って、わしはかの有名な、岩波文庫にもなった、あのソクラテスじゃよ。
ソクラテス？うちのテレビならクイントリックスだよ。
わしはテレビじゃない。
イカルスの星なら知ってるけど、いったい誰が有名だなんて決めたんですか？何日の何時、何分。

ソクラテス
高校生

さても君は「悪法も法なり」というの教科書にも出ているあの言葉を知らんのか。わしは高慢なギリシャの民に、真実に即して生きることを訴え、そして、それが故に扇動の汚名を受け、毒杯をあおったのじゃよ。（自己陶醉しながら）かつて、こんな美しい生き方が果たしてあったでしょうか。
今の世にマジなんてダサイしね。そんなものが居たなんて正直いって信じられないよ。では、訊きますけどね、マンガ、ロックにチューインガム、バイクに乗って、つまり楽しく生きて、なにがいけないの？

ソクラテス
高校生

さても、そんな軽薄な生活も過去の人々の真面目な努力と苦勞のうえに築かれてきたのだと気付かないとは情けない。
そんなに言うんだったら、じゃあ、僕に、おじさんが言うところの重たいや（高校生、ソクラテスとも重たい物を抱える格好）っていつのを見せて下さいよ。（少し、起こった風）

ソクラテス

そうじゃな、わしもそれを尋ね歩いてみたい気分になった。この現代にはたして真実があるのか、善が行なわれているのか、そして、美が見い出せるのか。

先生 (高校生が散らかしたごみを拾いながら登場) ますい。

高校生 ソクラテス

どうかしたのかね？

高校生 ソクラテス

僕が学校をさぼっているってことは内緒ですよ。だから、その学校とは何なんだ。

高校生

そうか、貴方は過去から来た人だから、学校というものを知らなかったんですね。学校というのは、同じ一年間の間に生まれた、・・・ええ、そのこと自体

も考えてみれば随分しゃくし定規ですがね、だって、そうでしょ、齢とともにみんな同じ様に成長するなんて誰が考えたんです？皆がレールに沿って決まったように育たなければならぬなんていった誰が決めたんですか、まあ、学校とは、同じ年に生れた者同志を集めて同じように育て、同じような考えを持つように調教するおぞましい所なんです。個性なんて、あったもんじゃない。あっ、先生と呼ばれる人がやって来ました。物陰に隠れてください。(物陰に潜み、先生の様子を伺う)

先生

(登場しながら) あっ、ここにもごみが落ちてている。学校を綺麗にしたそれだけ勉強にも身が入るだろうに。環境の汚濁にどうしてこんなにも無神経でいれるんだらう、不思議だなあ(首をかしげる)

女生徒 A

(駆け寄ってきて先生の肩を叩く) 先生、何をしてるの？

先生

ああ、おまえか、びっくりした。きちんと勉強してるか？

女生徒 A

なに言ってるの、もう、先生っていうのは決まった事しか言わないんだから。みんなこれから後夜祭が始まるからって楽しみにしているのよ。

先生

まあ、生徒会長の鈴木君があんなに頑張ったんだから、少しくらいはめを外してもいいだらう。だけど、いいかい、ほんのわずかだよ。それも人生というレールを踏み外さないようにね。

女生徒 A

そんな、いかにも先生みたいなこと、言わないで。

先生

俺は、先生だよ。

女生徒 A

そんな、真面目なことばっかし言ってるから幾つにもなっても結婚できないのよ。ねっ、一緒に楽しみましょうよ。(先生の手を引っ張る)

先生

(手をふりほどき) あっ、ちょっと待って、ゴミが落ちてている。

女生徒 A

(再びごみを拾う・生徒が上履きを履いているのに気づき、指差しながら)

先生

おい、体育館で上履きを履いちやいけなくて、あれほど、言ってるだらう。だって、盗まれちゃったのお。

女生徒 A

安易な言い訳ばかり考えて生きていくことに人間はいつかは疲れるものだが。

先生

それでもいいの。

女生徒 A

さあ、代わりを上げるから、職員室までいらっしやい。

先生

後夜祭はどうするの？

女生徒 A

規律ある服装に規律ある生活が宿る。

先生

公孫樹祭はどうするの？

女生徒 A

はじめある態度にはじめある精神。

先生

後片づけはどうするの？

女生徒 A

先生
女生徒 A
先生
女生徒 A

いつも身ぎれい。いつも整頓。
つまんな〜い。
嫌われてもいい。たくましく育ってほしい。
楽しくない。

先生
女生徒 A
女生徒 B
女生徒 A

先生は君たちの将来を思っていているんだよ。先生は給料が安いからって、そんな文句は一回だって言ったことはないんだ。
そんなの知らないわ。

女生徒 A
女生徒 B
女生徒 A

(駆け寄ってきて) どうしたの？

先生
女生徒 A
女生徒 B

文化祭を楽しもうっていつてゐるのに、先生が蠅みたいにまとわりついてうるさいの。
こら、蠅とはなんだ。蠅とは。せめて天道虫ぐらいにしる。天道虫は金持ちだと言うだろ。

女生徒 B
先生

先生、それを言うなら、黄金虫は金持ちですよ。

女生徒 A
女生徒 B
高校生
女生徒 B

そうか、しかし、それも小さなことだ。あつ、ごみが落ちている。(ふたたび屈みこんでごみを拾う) あつ、あそこにもだんだん退いてゆき、やがて退場)
先生、待って。後夜祭はどうするの？ (先生を追い掛けていき退場)

高校生
女生徒 B
高校生
女生徒 B

(客席にむかつて) やれやれ、訳の分からない話だ。
今井さん。
あつ、崎山君。こんな所で何をしてるの？ 暗闇なんか隠れて、まるで覗き魔みたい。

高校生
女生徒 B
高校生
女生徒 B

そういう趣味はないよ。
じゃあ、そこで空を飛ぶ練習でもしていたっていうの？

高校生
女生徒 B
高校生
女生徒 B

おい、俺は今話題の皇居のお堀のカルガモじゃないよ。
貴方の正体がカルガモだったら楽しいのに。
ちえ、冗談じゃない、変な女だなあ。

高校生
女生徒 B
高校生
女生徒 B

あー、ある人の正体は実は人間じゃなくて、夜になると人知れず、飛んで自分の星に帰るなんて、・・・想像しただけでも夢があつて楽しいんじゃない？
もし、そんな風に正体を明かされても、それが嘘だなんて誰にも言えないんだし。

高校生
女生徒 B
高校生
女生徒 B

けったいな女だなあ。君、いつもそんなこと考えてるの？
あー、ちよつと想像力がたくましいだけ。わたし、夢見る乙女よ。
ところで、そんなことより、今、大変なんだ。

高校生
女生徒 B
高校生
女生徒 B

何か？
うん、とつても変わったおじいさんに捕まっちゃってね。どうも、自分をソクラテスとかいう人の再来だと思ひ込んでるようなんだ。

女生徒 B
高校生
高校生

へえーっ、なんて夢のある話。メルヘンだわ。
ああ、そう。だけど、それで済むんならまだしも、現代における真、善、美を見せてくれとって聞かないんだ。

ソクラテス
高校生
ソクラテス

これ、青年。
あつ、ほっぼいといてすいませんね。なんですか？
今のは何なんだ。

高校生

ええ。さっきも言いましたけど、今のが学校の先生といってね、知識を与えることを商売にしている人たちなんです。まあ、政治家、弁護士、医者にしても同じですが、この世では金を取って威張っている人達を先生というのです。

まあ、いろんな人が居るけど、なかには人格を疑いたくなるようなヤカラも居ますね。それは、もう、火気厳禁、割れ物注意、取扱注意って感じだね。彼らは夢や理想について生徒に語りかけます。自分が道徳をしょって立っているというよくな顔付きをして。そのくせ、夜になると、酔っ払って、街中をうろついているって噂ですよ。

ソクラテス
まるで、ソフィストだな。

高校生

ソフィストってなに？ソフトクリームみたいに甘いもの？

女生徒B

しよせん、貴方はその程度。

ソクラテス

と言うと、この夜に道徳は存在しないというのか。

女生徒B

ええ、今は地上げ屋がはびこっているけど、右も左も金、金、金ばっかして道徳なんて古臭い言葉、どこにも落ちてやしないわ。学校に「倫理」っていう訳の分からない授業があるくらいで。

高校生

そう、たまに寄付するなんてことをする奇特な人がいたりすると、新聞なんかに載ったりしちゃうもんね。

女生徒B

人に施しをできる人とできない人がいるということ自体が社会の矛盾だね。

高校生

でも、おまえ、お金持ちと結婚したいって言ってたじゃないか。

女生徒B

そりゃ、無いより、あったほうがいいに決まってるわ。

ソクラテス

ああ、なんて悲惨な話だ。(脆いて頭を抱える) できるだけ多くの金銭を手に入れたらいいよ。ソクラテスさん、そりゃそうですよ。今の時代に銭抜きの話をしたって無理つてもんです。金のうごめく世界でみんなアップアップしてるんですから。

ソクラテス

少年よ、大志を抱けて、昔から言うではないか。おおらかに生きよう、おおらかに。

高校生

大志を抱くより、ドラゴンクエスト3を抱いた方がよっぽど楽しいってもんですよ。ドラゴンクエスト3。

女生徒B

社会を固いカラで覆ってしまって、その中身を鋼鉄の歯車で機械仕掛けにしてしまっただけで、その型にはめて、子どもたちから人間らしさを奪ってしまったのは、ほかならぬ、大人たちじゃないですか。崎山君、行こう。行って文化祭を楽しみましょう。

高校生

ああ、そうしよう。

ソクラテス

(いかにも苦渋に満ちた声で) 真についてはどうか。真理も、やはり、無いというのか。

通行人

(登場) どうかしたんですか？どこか、具合でも悪いんですか？

ソクラテス

真理をどこかで見かけませんでしたか？

通行人

(首をかしげる)

ソクラテス

ここに来るまでに、どこかで真理を見かけませんでしたか？いろいろな物が私の目の前を通りすぎていくようです。だが、うすぼんやりとして、どうも、その対象がはっきりとしない。

通行人

貴方は、どこか、私か、本のなかで出会った人にどうも似ているようだ。

ソクラテス

私はソクラテスー

通行人

そう、ソクラテス。決して容貌のすっきりした人ではなかったが、はっきり言

言って不細工な人ではあったが、どこか人を和ませるところのある穏やかな顔つきをしていたっけ。そう、ソクラテス。懐かしい響きだなあ。

ソクラテス

通行人

貴方は真理というものを御存知か？

ああ、それだったんですね、一目会ったその時から、私か貴方に言い知れぬ共感ほ覚えた訳は。実を言うと、私もそれを探していたところなんです。

ソクラテス

通行人

それはまたどうして。

常識という言葉のなかに安住しすぎて、私たちはいかに多くの真実を見過ごしてきたでしょう。その量を考えると恐ろしいくらいです・本当は非常識のうちこそ真理を尋ね歩くべきなのに。

ソクラテス

通行人

貴方、ひよっとして変人？

いや、ソクラテスさんほどでは。貴方、長井先生が家賃を溜め過ぎてアパートを追い出されたっていう噂をご存じ？

ソクラテス

通行人

噂のなかに真実が宿った試しはないよ。

通行人 私はコンピューターは好きだが、酒はいっこうにやりません。

ソクラテス

通行人

コンピューター？

ええ、コンピューター。

ソクラテス

通行人

コンピラ様なら、お池にはまって大変だぞ。

ソクラテス

は、は、貴方は科学というものを御存じない。

ソクラテス

通行人

そう、私達のライフスタイルの一部始終にしみ込んでいて、生活を便利、かつ快適にしてくれるもんです。

ソクラテス

通行人

ほう、そのコンピューターとやらと、マッチとはどっちが便利かね。

ソクラテス

通行人

マッチ？

ソクラテス

通行人

そう、わしの友人の孫の遠い孫にマッチ売りの少女がおったが、彼女を天国から見ていると、心がじんわり暖まったものだ。

今はもっと便利になって、(ライターを取り出し、点ける)ほら、こんな物がちまたに溢れているんです。・・・人間は、ほかならぬ文明の進歩のなかにこそ幸福が宿るといふ幻想を抱いて、懸命になって努力を積み重ねてきたのです。つまり、進歩こそ真理なのです。

ソクラテス (後ろを向いて大きく首を振る)

通行人

車に乗れば、遠くにだっていけるし、電話を使えば、遠くの人とも話ができるし、スポーツで種を蒔けば、子供だって作れるんです。

ソクラテス

通行人

おしまいだ！

ソクラテス

通行人

えっ？

ソクラテス

通行人

おしまいだよ。

ソクラテス

通行人

どうして？

ソクラテス

通行人

現代社会に殺戮が増えているというようなことはないかね？

ソクラテス

通行人

それは、おっしゃるとおりですが、心が病んでいるんだ。

それだったら、言いますが、過去にはずうっと戦争というものがあつたのです。あの、おぞましい大量殺戮が。

ああ、戦争はギリシヤの世界でもあつたとも。一言言っておこう。決して戦争を美化するつもりはないが、あれにはあれで、民族自決という大義名分があつた。しかし、・・・

通行人 　　しかし？

ソクラテス　しかし、現代には、アイデアの片鱗すらない。

（少し、考える風をして）美？まだ、美があった・この濁世にはたして、美を見い出すことはできるだろうか？

通行人　　（ためらうように）美を求めるとなると、それは、難しい。

ソクラテス　だが、わしは、それこそを見てみたい。

通行人　　そうですね、あっ、あそこに人がいるから、ちよこつと訊いてみましょう。

通行人　　（舞台から現われる）

通行人　　もし、少しお伺いしたいのですが、

通行人　　C　　いったい、なんででしょう。

通行人　　この辺りで何か美しいものを見掛けなかったでしょうか？

通行人　　C　　（思わず、問い返す）はっ？

通行人　　美しいものを見掛けなかったでしょうか？

通行人　　C　　貴方がたは二人して変人？それとも狂人？私をあこがれのサッカー部のマネージャーをやっているからして、今は忙しいんです。（退場）

通行人　　もし。

通行人　　池辺さん

通行人　　池辺さん

通行人　　美しいものが落ちてはいませんでしたか？

池辺さん　　いや、私は進路室に用事があるんです。それじゃ、急ぎますから、（手を振って足早に去る。また、戻ってきて）

池辺さん　　あっ、化粧をした女子高生ならそこにいましたよ。そんな美で良かったら、

池辺さん　　ちまたに転がってますよ。（ふたたび退場）

池辺さん　　（*当日はこの部分の台詞に池辺先生の即興が入りどう対応しているかわからなくなつた大石先生ともども愉快な場面が成立した。）

池辺さん　　どうも、現代の人々は忙しすぎて、何か大切なものを見失っているようだ。

池辺さん　　通行人　　あっ、また、人が来た。あの人にも訊いてみよう。

通行人　　もし。

通行人　　はい、なんででしょう。

通行人　　私達は美を尋ね歩いているのです。

通行人　　D　　貴方はもしかして、あの、あの伝説的なコメントさんパート2の隠れファン

通行人　　D　　ではありませんか？

通行人　　E　　あまり大きな声では言えないんですが、実は、僕は、いまでも大庭久美子の

通行人　　E　　ファンなんです。

通行人　　E　　（うづくまつた体勢からやにに起き上がり）慰めよ、あれ！

通行人　　E　　それとも川島直美タイプ？

通行人　　D　　狛江高校の生徒みたいに楽しくやればいいじゃないですか。たまには馬鹿になつて。

通行人　　E　　ソクラテス　私の心はいまだに満たされない。慰めよ、あれ。

通行人　　E　　私の友人に、陶芸を試みて、もう十年というもの山に閉じこもつたまま街に

通行人　　E　　出てこない人間がおります。そんな人間と語ることが、もしや何かの参考に

通行人　　E　　なるやもしれません。もし、お望みなら、ご案内さしあげても良いが。

通行人　　E　　それは、是非、お願いしたい。

通行人　　E　　しかし、そこは、ここより遥かに空間を隔てた所にあります。それでもいい

通行人　　E　　ですか？

通行人　　E　　ソクラテス

通行人　　E　　ソクラテス

通行人　　E　　ソクラテス

ソクラテス 構いませんとも。美を目のあたりにできるなら私は労力を惜しまない。それにアテナイにいたときには、真理を求めて日夜歩き続けていましたからね。はっ、はっ、はっ。

ソクラテス E ところで、彼に会うためにはさらに重要な条件があるのです。

ソクラテス それは何か。

E なによりも、貴方自身が孤独のうちに埋没し、したがって、純粹にならなければなりません。

ソクラテス はっ、はっ、はっ。貴方は私に人間になれと言っておるんだね。

E そのとおりです。人間そのもののために、つまりは芸術そのもののために、

なによりも孤独が必要なのです。

ソクラテス とにかく会ってみることにしよう。

E それでは行きましょう。

(E. ソクラテス、左奥に退場)

(ソクラテス、E、左奥から右奥へと通り過ぎる。ソクラテス手にランプをもつ)

(両者、右奥から出てきて)

ソクラテス

まだかね。

E ええ、本物に出会うためには時間の成熟が必要なのです。

(左奥へ退場)

陶芸家

(うつそうとした格好をして登場)

ああ、澄み渡った空に雲雀が鳴いている……私はここに来て、もう何年になるだろう。だが時は去りゆくばかりで、私に満足な作品を創らせてはくれぬ。

(遠くから) やあ。

E

(手を耳に当て、空耳かどうか不思議がる) 何か聞こえたようだったが。

陶芸家 E 私だよ。

陶芸家 E ああ、君か。(握手を求める)

E なつかしいね。

陶芸家 E そうだね。そちらは?

E ええ、ちょっととした私の知り合いでね。今、美しいものを尋ねておられるところだ。

陶芸家 どうして、ランプなどをお持ちなのか? 今は、真っ昼間だというのに。

ソクラテス ワシは人間を探しておるのじゃ。

陶芸家 だったら、ここを通り過ぎるが良いでしょう。ここには人間はおりません。

ソクラテス 貴方は?

陶芸家 私ですか? (手を自分の胸に当てる) 私は、自分が人間であることをどうの

昔に忘れてしまった者です。

ソクラテス それは、また、どうして。

陶芸家 (自分を説得するように) 自分の利益をまず考えるものが、人間の肉体には

宿っておる。とするならば、心を満たすために、どうして人は人間であるこ

とに耐えられるでしょう。

ソクラテス それこそ私の求めている人間じゃよ。貴方は世間の人とはどこか違うようだ。

陶芸家 はっはっ。貴方がもしそうお感じになるとするなら、それは私が、長い間、

人里離れて住んできたからでしょう。

ソクラテス いや、きっとそれだけではないはずだ。

陶芸家

それは大変な買いかぶりというものです。ほら、この作品を観てください。ここには良い作品というものに執着している俗物がいる。私は、どうしても人間というものを止めることができないでいるのです。

真の理解のために言葉を弄する必要はない。

ソクラテス

(舞台から一度立ち去り、陶芸品を手にして再登場)

善い作品というものはこうして手に取れば自ら語りだすものです。ところが、たとえばこれは私の前で沈黙を保つばかり。世界が開かれない憂鬱のなかで私はもう十年というもの、ここで陶器と対話を試みてきたのです。

ソクラテス

残念ながら、私には陶芸の価値は分からない。

陶芸家

はっ、はっ、はっ、専門的に従事している私か駄作だと言っているんだから、間違いはなからうというものです。

ソクラテス

貴方に言いたいことがある。

陶芸家

(ソクラテスの方を振り向き、様子をうかがう)

ソクラテス

たとえ、その作品が貴方の言うようにつまらないものであったとしても……。

陶芸家

だって、実際、そうなんですから。

ソクラテス

貴方が、今、そうして、丹精を込めて作った作品を持っているその姿を鏡でご覧になったことがありますか？

陶芸家

さても、私は山に隠遁してからというものの、自分の姿さえ、はたしてどんな風をしていたかさえ忘れてしまいました。

ソクラテス

光りを放っている。

陶芸家

えっ？

ソクラテス

陶芸品をもつその姿に欲は覗いていない。

陶芸家

そんなことは、自分で意識したこともないが。

ソクラテス

ありがとう。私は、今こそ、美を見せてもらった。貴方に感謝する。

陶芸家

そんな。

ソクラテス

こんな世相においても、片隅には人の心が根づいておった。温かさは失われ

陶芸家

てはいなかった。貴方のおっしゃるところの美とは何なのか、伺いたい。私自身への問いとして。

ソクラテス

つまり、それは、こういうことじゃよ。実在するものはいつかは崩れる。だとしたら、どうして、美そのものが同時に形を伴うものとして存在できるというのか。完全な美とは、もはや、永遠でなければならぬ。私は今こそ言おう。美はそれを精神的なものとして追い求める人の心のうちにこそ宿るのだと。

陶芸家

貴方を、もっと、見てみたくなりました。

ソクラテス

貴方の作品を作ろうとする尊い心。そのうちにこそ美は住み込むのだ。

陶芸家

そんなものでしょうか。

ソクラテス

ついでに、貴方に言っておこう。真理も、やはり、人間社会には育たないのだと。それを希求する謙虚な姿勢のうちにこそ宿るのだと。自らを振り返れ。自分に忠実であれ。自己にたいして真摯であれ。そうすれば凡ては見えてくるものだ。

陶芸家

私のこの十年は、決して無意味ではなかったということですね。

んかねソクラテス そうだとも。真面目に生きている人に無意味という言葉など馴染まない。
陶芸家 貴方の言葉を心で聞くために、長い間、時間を費やしてきたような気がしま
す。

ソクラテス 私たちの間にフィリア、つまり、真の意味での友愛が芽ばえたのです。

陶芸家 貴方にお願ひがあります。

ソクラテス なんですか？

陶芸家 これから、ここに滞在して私の話友達になってほしい。

ソクラテス いや、美を受容するためには心が常に澄んでいなければなりません。私かこ
こに滞在することは、かえって、美を追い求める貴方の心を損なうことにな
るでしょう。親しすぎるところからは何も生れません。

E そう、真の芸術のために孤独こそ糧だと言ったのは他ならぬ君ではないか。

陶芸家 (ソクラテスに哀願しながら)では、いま暫くでも。

ソクラテス いや、わしはそろそろハデスの国に帰らなければならぬ。ありがとう。現世
もまた楽しかったよ。．．．最後にもう一度繰り返しておくが、真実を求める
心、それを間違つても失わんことだ。そういう姿勢を失わなければ、道徳は
自然と身に付いてくるものだ。それではご機嫌よう。わっ、はっ、はっ、い
やはや、久々に愉快だったわい。

(ソクラテス退場)

幕